



要支援・要介護になっても

ハタラク ガイド

写真：「ハタラク」で依頼された
店舗周辺の草取りを行う様子。

contents

- ・なぜ、社会参加なのか？
- ・岡山市総合特区 高齢者活躍推進事業
～対談～ 「ハタラク」は私たちの未来の選択肢を増やしてくれる
- ・導入事業所の「ハタラク」現場の声を取材
デイサービスセンターとんぐりハウス、デイサービスセンター操風
- ・「ハタラク」モデル事業 実施中！
プロジェクト関係者、企業・参加者の声





なぜ社会参加なのかなのか？

社会参加活動・はたらくには、一体どのような効果があるのでしょうか。

活動をはじめた本人が、以前よりずっと元気になったということがよく聞かれます。活動が意欲や心身機能の維持・向上につながっていると考えられます。また、本人の変化を通じて、家族の喜びや介護負担の軽減、地域住民にとつての希望、事業所スタッフのやりがいもたらされることもあります。

賃金労働や有償ボランティアに限らず、誰かのために、何かのために日々することを「はたらく」と考えると、地域の中には多くの仕事があり、できることが潜在しています。

こうした活動は、介護事業所内のアクティビティの1コマという意味合いを超え、地域社会全体に様々な波及効果があります。利用者が、その思いを活かして社会参加活動に取り組むことで、地域における人と人のつながり、生態系に変化がもたらされます。

本人(利用者)の声

小学校ボランティアなどの社会参加活動を通して、今は体がいうことを聞かないことも多いが、参加したいという気持ちを持つことが増えた。今後も体が動くなら色々なことに参加したい。
(80代男性・通所介護事業所)

弁当の作業(弁当箱にスタンプを押す作業)を行う事で愛着が出て、お店までお弁当を購入するために行った。
(70代女性・通所介護事業所)

家族の声

「折り紙や塗り絵などしたくない、自分はまだまだいろんなことができる」という父の言葉を頼りにデイサービスなどを探してきました。(他のメンバーと一緒に)はたらく姿をみて)あんな様子の父を久しぶりに見ました。本当に嬉しかったです。

(デイサービスに通う)以前は、家で暗く塞ぎ込んでいましたが、そこにいた人たちの明るさが伝染したのか、洗車という社会的なつながりが良かったのか、以前の父の明るさを取り戻していったようです。今も道に迷うことや、鬼の形相で怒ることもありますが、そんなことより友人ができたことが嬉しく思います。



←報告書全ページはこちら

出典：一般社団法人 人とまちづくり研究所『つながる・役割・はたらく』03 ページより



「やりたい」を実現するまでの道のり

介護事業所の中には、「社会参加活動」と言われても、何をすればよいのか イメージできないところも少なくないと思います。全国の事例を通じて、利用者の参加・はたらくの実現・継続には、どのような道のりがあるのかをまとめました。

1 そもそも、何をすればいいのかわか?
ひと口に社会参加といっても、本人の想いや希望、要介護度も異なり、有償ボランティアから家庭内での役割や買い物等しごとのタイプも様々です。活動内容ありきではなく、本人との話の中から、想いと「やりたい」を実現するための活動と一緒に考えていきます。

2 地域でしごとや役割を見つけるには?
利用者が得意なことやできることを起点に、地域の中でそれができる場所や仕事を発注してくれるところを探します。一般企業や商店、自治会などに尋ねてみることもできますし、関連法人などがあれば、そこで探すこともできます。最初は無償でスタートし、信頼関係を築く中で、謝礼を支払う有償ボランティアに移行するケースもあります。

3 外に出て、人員は大丈夫?
従来の運営方法のまま、それに加えて、外に出る活動をする介護スタッフが足りなくなるという懸念もあります。しかし、実際に活動をしている事業所では、室内も外でも、利用者にできることを積極的にしてもらうことで、こうした問題は起こっていません。社会参加を進めていくには、「してあげる」型の運営体制から脱却する必要があります。

4 謝礼が発生しても大丈夫?
介護保険サービスの利用者が、社会参加活動を通じて、有償ボランティアとして謝礼をもらうことは認められています。ただ、現段階ではそれほど多く事例がある訳ではないので、地域によっては前例がなく、消極的な解釈がなされる場合もあります。金銭などを発生させず、地域通貨のようなポイント制にする方法をとっているところもあります。

5 家族・ケアマネ・保険者はどう思うだろうか?
社会参加活動は、自立支援という介護保険の本来の目的に沿ったもので、自治体の中には、積極的に推進しようというところもあります。ただ、活動内容によっては慎重な判断がなされる場合もあります。活動の目的や他の地域の事例なども伝え、丁寧にコミュニケーションをとることが大切になります。

6 継続発展させていくには?
社会参加活動は、利用者の意欲や活動性が増すきっかけになります。介護サービスの利用時以外の、社会活動や就労などにつながるケースもあります。活動をより発展させていくために、就労継続支援との連携や、一般の企業活動の中に位置付ける動きもあります。



出典：一般社団法人 人とまちづくり研究所『つながる・役割・はたらく』05 ページより

要介護になっても、生きがいをもって暮らし続けられる地域社会づくりを 介護事業所・地域・企業が協力して実現する

岡山市の高齢者活躍推進事業

岡山市では、2013年から、高齢者が、介護が必要となっても住み慣れた地域で安心して暮らすことができる地域社会の構築をコンセプトに、在宅介護を推進する総合特区事業「AAA（トリプルエー）シティ岡山」を実施しています。「高齢者活躍推進事業」は、この特区事業の一環として行っています。

「高齢者活躍推進事業」は、通所介護事業所が、意欲と能力のある利用者に対して、地域社会とつながる「就労・社会参加活動」を介護保険サービスとして提供するを旨とする取り組みです。2018年7月に、国は介護事業所において地域での社会参加活動を実施する場

合の留意点をまとめ、全国に周知していますが、あまり広がりを見せていません。そこで岡山市では、行政が主導して取り組みを推進することとしました。

事業所や企業と連携を構築

2021年度は、下記の図の通り、プ

ていきます。

地域の人の活躍の場を増やす

2022年度も引き続き、実施事業所を選定し、市内の事例を積み重ねていきます。

本事業を継続していくことで、認知症の人を含めた要支援・要介護高齢者の方の想いを大切にし、地域の関係機関や地元企業が協力しながら、誰もが地域の一員として、自分の役割を持って暮らし続けていくことができるまちづくりを進めていきます。

2013年・5月
● 総合特区事業「AAAシティ岡山」始動！

2021年・7・8月
● モデル事業所を決定
社会参加活動の実施を希望する2事業所とともに取組開始

2021年・9月
● 事業の考え方を共有
事業実施の趣旨や実施にあたってのポイントを関係者が集まって共有

2021年・10月
● 本人の願いを知る
「働きたい」「役に立ちたい」「地域と繋がりたい」当事者本人の願いと可能性を探る

2021年・11月
● 地図のワーク
コーディネートと協働し地域支援や本人の可能性を可視化

2021年・12月
● 企業へのアプローチ
市が事業所と企業等とのマッチングを支援

2022年・3月
● 「ハタラク」実施
環境が整ったものから、順次社会参加活動を開始

プロジェクトあゆみ



「ハタラク」は私たちの未来の選択肢を増やしてくれる

プロジェクトメンバー
が思いを語る

なぜ、要介護の人もはたらける社会が必要なのか

高齢者活躍推進事業と一緒に進めてきたまちづくり仕掛け人の猿渡さんとプロジェクト担当者が、ハタラクプロジェクトの歩みと未来に向けて語り合いました。

猿渡：…すばり、要介護の人が「ハタラク」という事業を、岡山市が導入する理由は何でしょうか？

中島：…20、30年先の社会では、高齢者が増加し、認知症の人が小学生の数を上回る将来予測も出ています。誰もが避けて通れない超高齢社会に向けて、認知症の人も含めた、地域全ての構成員でまちづくりを考えていくことが不可欠です。立場や垣根を越えて行動するため、誰もが活躍できる事業として「ハタラク」を導入しました。

猿渡：…他の地域の事例と比べ、岡山市の動きの早さに驚きました。

中島：…特区事業が大きいかもしれませんが、市民の方と一緒に事業を進める形で、僕ら行政と介護セクター、企業や団体と動くことができました。加えて、まちづくり研修会に、事業所のみならず二日間みっちり参加して話し込むなど、単なる指導する行政と受ける事業所ではない一体感を作れたことも要因でしょうか。



「次の当たり前」のため 硬く閉じたフタをあけたい

猿渡：…すぐに理解してもらうことが難しい事業で、新しい当たり前をうみだす作業だと思いますが、中島さんが考えた戦略や突破口はありましたか？

中島：…プロジェクト関係者の考えを同じ土俵に乗せることに時間をかけました。要介護の人もはたらけるという、「マインドセット（固定概念の見直し）」ができること、一気にエンジンが掛かった印象があります。正直、私自身が他県の「ハタラク」へ視察に行くまで、本事業の真意が腑に落ちなかったのですが（笑）。自分の目で見ると、これかと理解し動けるようになりました。です。現場を見てもらうこと、プロセスを知る専門家とタッグを組むことで、地域全ての構成員を巻き込むことができるのではないかと考えました。実際、外部専門家に会議に入ってもらったと、地域みんなの本気度が上がりました。



事業所・企業を地域の仲間にする

猿渡：…岡山市の「ハタラク」のモデル事業に参加する事業所や企業の特徴は、どのように感じていますか？

中島：…この人たちのために挑戦したい、という対象者が明確な場合は動き

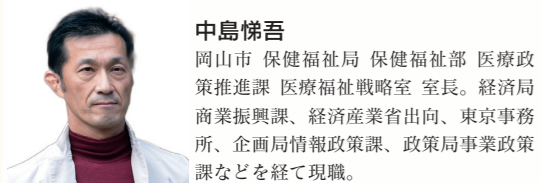
が早いです。事業の悩みや課題が、「ハタラク」導入によって解決するイメージがピタッとはまるケースもありました。こういうプロジェクト面白そう、この手があったか！と共感する企業の業種は、想定よりも幅広いと感じます。企業は、社会貢献の具体的なイメージがわかず行動できない所も多いようです。福祉との付き合い方、住民の仕事を増やす関わり方も社会貢献になります。その活動は、会社や私たち市民のためにもなるという将来イメージを共有したいです。

未来の岡山市が変化するために

猿渡：…介護保険や地域包括的ケアなど制度はあるものの、社会が使いやすいイメージとして「まちの設計図」がない、ということでしょうか。今回、地域でつながった人たちで、まちづくりの地図を描いていけたら、より面白くなりそうです。

中島：…そうですね。何かやりたくてウズウズしている団体が多いことも、今回、わかりました。モデル事業をきっかけに、そういう団体に活用してもらいたいですね。将来、市内に普通に「ハタラク事業所」があつて、地域にニコニコ通いたくなる所が増えて、ハタラク選択肢がたくさんある岡山市になるといいなと思います。

猿渡：…私たちの仕事は、人々の暮らしを支える「新しい当たり前」をつくること。これからはチャレンジしていきますよ！



中島 倭吾
岡山市 保健福祉局 保健福祉部 医療政策推進課 医療福祉戦略室 室長。経済局 商業振興課、経済産業省 出向、東京事務所、企画局 情報政策課、政策局 事業政策課などを経て現職。



猿渡 進平
岡山市総合特区事業 高齢者活躍推進事業 プロジェクト 外部専門家メンバー。医療法人 静光園 白川病院 医療連携室長。大牟田市 地域包括支援センター、厚生労働省 社会・援護局の出向などを経て現職。



岡山市で実践！

ハタラク

導入事業所の

現場の声を 取材！



ひとりの願いから始まる新しい認知症ケア

デイサービスセンターどんぐりハウス

古民家を活用したアットホームな雰囲気の小規模型のデイサービスで、一人ひとりに寄り添うサービスを実践する「どんぐりハウス」管理者の早見さんに、「ハタラク」導入までの経緯を伺いました。



管理者
早見満暁さん

ひとりの思いが起点に
他県の事例として「ハタラク」を紹介された時は、「こんなこと、岡山でも本当にできるの？」と驚きました。私たちのデイサービスの利用者に、デイサービスに毎日通う理由を、仕事へ行くとご自身で納得している方がおられるんです。その方にとっては仕事で来ているのに、なぜ利用料を払わなければならないのか、と周囲にこぼしていたんですね。
我々の役割として、この方のひっかかりを改善したいけれど、どうにもならないもどかしさがありました。ですので、

「ハタラク」で大切なこと

企業の方に説明する時は、この事業の話の前に、「デイサービスがどんな所か」の話からスタートするので、最初は自分でも何を話しているのかわからなくなるような、混乱もありましたね（笑）。施設で内職するの？ リハビリ？ と、間違えられることもあり、世間の常識を超えた事業だと感じます。

仕事内容は、単にお金をもらいう業務ありきではなく、こういう仕事をすると、あの方は輝くだろうな、とか考えますね。押しつけ仕事にならないことが大切ではないでしょうか。例えば草抜きをするに



デイサービスセンター どんぐりハウス
所在地：岡山市東区西大寺射越
種類：地域密着型通所介護
利用者数：10名
従業者数：9名

事業所全体で“あきらめない”に挑戦

デイサービスセンター操風

デイサービスでの医療・リハビリ等の機能回復に加え、元気な高齢者の癒しの場として地域交流にも力を入れる「デイサービスセンター操風」管理者の真木さんに事業への思いを伺いました。



管理者
真木優子さん

楽しそう！ やってみよう！！
新しいことを始めることが大好きな組織なので、利用者さんのためになることはやろうと決めました。2021年の介護報酬改定で通所介護の地域交流が努力義務化されたこともあって、組織の年度目標に地域活動の積極的推進を掲げた頃、岡山市から「ハタラク」説明会のメールが来たんです。楽しそうだし、やってみよう！ と即決でした。
組織全体でプロジェクトを実施
事業所全体で取り組めるように、スタッフ内でプロジェクトのコアメンバーを決めて、全体に浸透する形をとりました。



写真上：利用者へ「ハタラク」の希望を聞き取るスタッフ。写真下：集めた地域情報を地図にまとめて共有している。

「ハタラク」の見つけ方
仕事の発掘は、利用者さんの声を元に、現在は、地域を歩いて探している状態です。事業所の周辺30分ぐらいい自転車で走りながら、一件一件、声をかけると、いろいろな人が教えてくれたりして。私たちも地元の発見を楽しんでいますよ。その情報から、受けられる内容や人数を考えて「ハタラク」のイメージを広げています。正直、地域でどのような動きをしているのか、探り探り、関係性を作っている段階です。今後、プロジェクト全

市の資料や個別ミーティングの情報を軸に、「ハタラク」の内部勉強会を続けていきます。スタッフには、現場の業務状況も考えて、「こういう内容を、この位の時間帯で実施したい」と具体的に伝えていきます。変化したいことは、利用者さんの、できること、何だろうと考えると、「どんなことをしてみたい？」と利用者さんと話す機会が増えたことですね。

チャレンジしたい人へ

「ハタラク」を取り入れることで、私たちの事業紹介も、より個性を強調できると考えています。事業に関わる人たちの「こうしたい」が現実となるように、チャレンジしてもらいたいです。
デイサービスに來られている方には、身体機能や認知機能の低下から「何もできなくなつた」と思われている方もいらっしゃると思います。実際には、周りで作業をしている集団の中に溶け込むことや、利用者、職員の声かけなどによりできることが増えてくることもあります。「ハタラク」の導入によって、利用者さんの本當の気持ちに気づき、動き出したくなる環境づくりにつながればと思います。「操風（デイサービス）にきてこそ」と思えるデイサービスにしていきたいです。



公益財団法人操風会
デイサービスセンター操風
所在地：岡山市中区奥市
種類：通所介護
利用者数：30名
従業者数：14名

選択肢が広がる地域へ

利用者さんのニーズを知っているのは私たちなので、行政には、今までと違うことを岡山市でもできるという情報発信や場づくりを継続して頂きたいですね。これから岡山市内の協力企業が増えていけば、地域の認知症ケアの実践が進み、新しい切り口の認知症ケアが実践できます。その活動が広がれば、地域に「ハタラク」リストみたいなものが作れるでしょうから、利用者さんそれぞれに合うものを選べる時代になっていくだろうと期待しています。

岡山市初!

モデル事業で「ハタラク」実施中!

2022年3月から、モデル事業における「ハタラク」の実践がスタートしました。ハタラクを依頼する企業、受注する事業者、実施する高齢者の3者により成立しています。



「ハタラク」依頼

企業・団体

- ・自然な「見守り」高齢者
- ・認知症への理解
- ・地域包括ケア



「ハタラク」受注

介護事業者
デイサービス



- ・職員のスキル向上
- ・職員のやりがいアップ
- ・地域社会での存在感
- ・介護のイメージ刷新



「ハタラク」実施

要支援・要介護
高齢者



- ・仲間・地域とのつながり
- ・生きがい・役割
- ・収入獲得
- ・在宅生活維持



モデル事業
ケース1

「ハタラク」
依頼 おかやまコープ

「ハタラク」
受注 介護事業所

「ハタラク」
実施 草取り



非常にいきいきと作業していただきました。きっちりした仕上がりに満足しています。お渡しした有償ボランティア代で、店内のどら焼きを購入されたのですが。喜ばれる様子を見て、依頼して良かったと思っています。



生活協同組合おかやまコープ
コープ西大寺 店長 黒瀬修啓さん



モデル事業
ケース2

「ハタラク」
依頼 ヤマト運輸

「ハタラク」
受注 介護事業所

「ハタラク」
実施 DM 配達



年齢を重ねても、みんなで楽しく過ごせる仕組みを作っていこう、というところに共感しました。地域の方に見守ってもらえたり、働きがいを感じてもらえるように、受け入れ体制を整えていきたいと思っています。



ヤマト運輸 株式会社
岡山主管支店 岡山西大寺営業所
所長 藤井康典さん



モデル事業
ケース3

「ハタラク」
依頼 フジミツグローブ

「ハタラク」
受注 介護事業所

「ハタラク」
実施 内職



本当に真剣に動いてくださることに驚いています。どんな状況になっても働きたい、という気持ちを応援したいです。みんなが嫌がる仕事を、喜んで作業していただき、仕上がりは何も問題なく助かっています。

株式会社フジミツグローブ
代表取締役 佐野静子さん

発行：岡山市

制作：株式会社DFCパートナーズ

〒700-8546

岡山市北区鹿田町一丁目1-1

医療政策推進課医療福祉戦略室

TEL:086-803-1638

FAX:086-803-1776

E-Mail : iryou-s@city.okayama.lg.jp